

図書館や書店で情報の達人になろう

川出真清（准教授 公共経済学）

私は昨年4月に日本大学に赴任して、一年を終えようとしている。日本大学経済学部へ赴任してまず驚いたのは、立地のすばらしさである。日本大学経済学部は千代田区三崎町という日本の中心地に立地しており、様々な経済、社会、文化、スポーツの中心地に簡単かつ素早く行ける。本稿は図書館報なので特に本に限ると、近隣に神田神保町があり、大きな書店だけでなく、様々な分野に特化した古書店が集中している。これほど書籍情報が集まった素晴らしい環境にある大学は日本では唯一、世界的にも有数といえる。私も昼食後の散歩として古書店街を歩きながら、自分の関心領域以外の専門店にも目を向けることができ、今度この分野の本を読んでみようなどと思いを巡らしている。学生の皆さんも、これほど恵まれた環境は滅多にないので、是非、食事後の腹ごなしをかねて、新たな出会いができる神保町を散歩することをお勧めしたいと思う。

そして、このような好立地にあっても、日本大学経済学部図書館は専門分野に関して、勝とも劣らない優れた環境を持っている。経済学、経営学をはじめとした膨大な数の専門書、そして、普通の書店や図書館ではなかなか目にすることのない専門分野の雑誌がある。さらに、大きな閲覧室があるので、長時間歩くと疲れてくる神保町とは違い、腰を落ち着けて、じっくりと本や雑誌を読むことができる。また、神保町の書店には経済系の多くの書籍が並んでいるが、図書館は経済・経営学系に専門を絞っていることもあり、スペースにも限りがある書店を遙かに上回る種類の書籍や雑誌を蓄積し、司書の方もいらっしゃるので、探したいテーマからでも知りたい書籍を見つける手伝いもして下さる。このように、経済学部図書館は専

門に特化した充実した環境がある。

また、経済学部図書館が長期間体系的に書籍を集めてきた事の利点をさらに強調しておこう。書籍はロングセラーにならないければ、絶版となる。よい書籍はロングセラーになる事が多いが、逆に、絶版の本が劣った書籍だとはいえない。「逆は必ずしも真ならず」である。古書店ではその良書が必ず見つかる保障はない一方、ほぼ必ず見つけることができるのは図書館である。例えば、統計学や経済学での良書として、竹内啓「統計学と経済学のあいだ」、東洋経済新報社、1977年（本学図書館B2書庫所蔵、請求記号：331.191Ta 67）がある。ちなみに、この本も既に絶版である。本書は主に経済一般雑誌などに寄稿したエッセイを再編した書籍であるが、統計学や不確実性のとらえ方に始まり、経済学の世界観に関して、一般読者にも示唆に富んだ説明がされており、現在でも色あせるところか非常に意義がある。もし経済学や統計学の考え方がいまいちなじめないと思ったら、この本を読んでみることを勧めたい。

昨今、電子書籍に関心が集まっている。確かに、先進性、便利さがあり、今後一層広がって行くだろう。しかしながら、絶版になった本、旧版との比較、偶然に手にするという出会いは、古書店、それにもまして体系的かつ豊富に資産が蓄積されている図書館という場所にはかなうべくもない。それぞれの長所短所を活かすという観点で見れば、旬の本は書店や電子書店、関心のある分野の珍しい本との出会いは古書店、そしてお金や時間のことは考えず、経済に関する様々な著書を発見したり、じっくり腰を据えて対話したりする場所は経済学部図書館というように使い分けると良いだろう。三崎町という非常に恵まれた立地で、図書館、書店、古書店、電子書店というさまざまな機会の長所短所を理解して、大学生活の4年間を通じて、学生の皆さんには情報活用の達人になってほしいと思う。